

「いじめの問題への対応状況の調査」結果（11月末現在）

令和4年（2022年）3月
北海道教育委員会

◆ 調査の概要

1 調査の趣旨

いじめの問題の未然防止、早期発見・早期対応の取組の一層の充実を図るため

2 調査対象校 《計1,575校》

札幌市立学校を除く道内全ての公立小・中・高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校

- ・小学校787校（義務教育学校前期課程含む）
- ・中学校474校（義務教育学校後期課程及び登別明日中等教育学校前期課程含む）
- ・高等学校247校（全・定別、登別明日中等教育学校後期課程含む、通信制除く）
- ・特別支援学校67校

3 調査対象期間

令和3年（2021年）4月～令和3年（2021年）11月

◆ 調査の結果

	1. 認知したいじめの件数	対応状況			
		2. 解消件数 ・ 心理的、物理的行為が止み、相当の期間（3か月程度）経過している。 ・ 心身の苦痛を感じていない。	3. 解消に向けて取組中の件数 ・ 心理的、物理的行為が止んでいるが、その状態が相当の期間（3か月程度）経過していない。 ・ 心理的、物理的行為が止んでいない。 ・ 心理的、物理的行為が止み、相当の期間（3か月程度）経過しているが、心身の苦痛を感じている。		4. その他
令和3年度 第3回 （4月～11月）	12,867	6,348（49.3%）	6,466（50.3%）	46（0.4%）	7（0.05%）
小学校	10,169	4,987（49.0%）	5,165（50.8%）	15（0.1%）	2（0.02%）
中学校	2,074	1,054（50.8%）	1,001（48.3%）	17（0.8%）	2（0.1%）
高等学校	548	274（50.0%）	258（47.1%）	13（2.4%）	3（0.5%）
特別支援	76	33（43.4%）	42（55.3%）	1（1.3%）	0（0.0%）

※（ ）は、認知したいじめの件数に対する割合

◆ 前年度同期の調査結果

	1. 認知したいじめの件数	対応状況			
		2. 解消件数 ・ 心理的、物理的行為が止み、相当の期間（3か月程度）経過している。 ・ 心身の苦痛を感じていない。	3. 解消に向けて取組中の件数 ・ 心理的、物理的行為が止んでいるが、その状態が相当の期間（3か月程度）経過していない。 ・ 心理的、物理的行為が止んでいない。 ・ 心理的、物理的行為が止み、相当の期間（3か月程度）経過しているが、心身の苦痛を感じている。		4. その他
令和2年度 第2回 （4月～11月）	11,780	5,628（47.8%）	6,085（51.7%）	58（0.5%）	9（0.1%）
小学校	9,336	4,473（47.9%）	4,831（51.7%）	29（0.3%）	3（0.03%）
中学校	1,865	905（48.5%）	949（50.9%）	10（0.5%）	1（0.1%）
高等学校	536	236（44.0%）	278（51.9%）	17（3.2%）	5（0.9%）
特別支援	43	14（32.6%）	27（62.8%）	2（4.7%）	0（0.0%）

※（ ）は、認知したいじめの件数に対する割合